

Yamato Welfare Foundation
ヤマト福祉財団

ヤマトグループ賛助会員向け
ニュース(季刊)
発行部数13万部・非売品

2018.7.20 Summer

No.
59

NEWS



平成30年度福祉助成金事業～助成金贈呈式

私たちの力を見える形に



Profile

東京学芸大学卒業後、東京都の教員として勤務。そのうち34年間、養護学校で知的障がい子どもたちと過ごす。定年と同時に「卒業生を応援する会」に加わり、スワンベーカーリー((有)ヴィ王子)の立ち上げ・経営に関わる。その後、福祉的な場を必要とする人たちのために(社福)ドリームヴィの立ち上げに関わり就労支援や生活支援、地域の町おこしを進める。第3回ヤマト福祉財団賞受賞

地域の問題も 皆で解決したい

1998年ごろ、王子養護学校(現・王子特別支援学校)の卒業生たちを応援して(こうと、卒業生の親や職員たちで作った会が土台となって、地域で生きつづけられるよう、さまざまな取り組みを始めました。

ちょうどその頃、ヤマト福祉財団が障がい者の働く場づくりを目指してフランチャイズ展開を始めていた「スワンベーカーリー」に出会ったのです。イートインコーナーを大きくした店舗付きパン工場を作ることができれば、立ち寄る人も働く人もいる場ができると確信し、北区十条に(有)ヴィ王子を設立してスワンベーカーリーのフランチャイズ1号店を99年5月に開店。亡き小倉昌男氏の指導をいただきました。

工場付き店舗として借りることのできた場所は、立地条件の良くない所。そのため、待つだけでなく、お客さんの所へ出向く「宅配サービス」による販売と出張販売を考えました。「スワンベーカーリーです。パンを届けにきました」「苦労様。また来週もよろしく」学校や会社、官公庁などの出張販売先でも彼らを待っていてくれる人たちとのやり取りができるようになりました。

当時、障がいのある人たちが街に出て接客することは画期的なことだったのです。小倉さんもパンをぶら下げて届けに行く様子を見て、たいへん喜んでくださいました。その後、生活の支援が求められるようになり(社福)ドリームヴィを設立。さまざまな障がい者福祉事業を進めました。あれから20年――。障がいのある人が街に出るようになった今、地域が必要とする中で、「私たち社会福祉法人の障がいのある人とスタッフが一緒になって地域で担っていきけることはないだろうか」と考えるようになりました。

北区の桐ヶ丘地区は高齢化が進み、中央商店街もシャッター通りと化しています。そこで空き店舗をお借りして、高齢者に栄養バランスの良い食事をと「カフェレストラン ヴィ長屋」を開設しました。高齢者がここで出会い、つながりを深め、子どもも立ち寄り寄って世代間の交流も行うことで、街の活性化につながることを願っています。

CONTENTS

表紙写真

助成金贈呈式でお伺いした旭川の「チーム紅蓮」の事業の一つ、バリアフリー観光推進事業で、旭山動物園へ。初めて車椅子を体験したという佐藤賢吾道北主管支店長と、吉田武人道北支部執行委員長

03

平成30年度福祉助成金事業～助成金贈呈式
私たちの力を見える形に

10

助成先レポートVol.34
NPO法人農楽郷ここ・カラダ カシスのしずく(青森県十和田市)
生き残るには、ニンニクしかなかった。

08

平成30年度 給料増額支援助成金 障がい者福祉助成金
全国で助成金の贈呈式を行いました。

12

この街で、一緒に生きていく。障がい者のクロネコDM便配達事業
雪の日も配達には休まない。ありがとう、がうれしいから。



日本障害フォーラムが
推進するイエローボン
運動に賛同しています。

私たちの力を 見える形に



佐藤主管支店長(右)、吉田支部執行委員長(右から2番目)が車椅子で観光を初体験。乗ってみてはじめてわかったことが多かったと話しています。この助成で、Tシャツや横断幕、ピンバッジなど「ものづくり事業」の仕事と売上の拡大を目指します。

5月16日、平成30年度ジャンプアップ助成金の贈呈式を行うため旭川市の「チーム紅蓮(ぐれん)」を訪ねました。

北海道の5月はまだ肌寒いかと思いましたが、旭川市は28℃と東京と変わらぬ夏日の暑さです。贈呈式に出席するヤマト運輸(株)道北主管支店の佐藤賢吾主管支店長、労組道北支部の吉田武人支部執行委員長と、旭山動物園で合流。ここでチーム紅蓮が進めている事業の一つ、車椅子でのバリアフリー観光を体験しました。その後施設に伺い、利用者さんの仕事を視学。チーム紅蓮にジャンプアップ助成金500万円をお渡しする贈呈式を行いました。

贈呈式のあとに行った「特別座談会」では、チーム紅蓮の現状と未来が見えてきました。



北海道の旭川市にある(NPO)カムイ大雪 バリアフリー研究所の事業所「チーム紅蓮」にジャンプアップ助成金を贈呈しました。



座談会出席者(文中、敬称略)

左から

- ・チーム紅蓮 施設長 バリアフリーセンター長 五十嵐 真幸氏
- ・(NPO)カムイ大雪 バリアフリー研究所 会長 只石幸夫氏
- ・ヤマト運輸(株) 道北主管支店 主管支店長 佐藤賢吾氏
- ・ヤマト運輸労働組合 道北支部 支部執行委員長 吉田武人氏

ジャンプアップ助成金贈呈式・特別座談会

北の大地に広がる 車椅子に載せた夢

車椅子というだけで就職先がない
そんな私たちに会長がチャンスを

本誌 先ほど、ヤマト運輸道北主管の佐藤主管支店長、ヤマト運輸労働組合道北支部の吉田支部執行委員長に出席いただき、チーム紅蓮さんへジャンプアップ助成金の贈呈式を行いました。ヤマトグループの賛助会費や労働組合の夏のカンパが、どのように役に立っているのでしょうか。五十嵐施設長に、その活用などを伺いたいと思います。まずはチーム紅蓮の誕生の経緯からお聞かせください。

五十嵐 私は、生まれつき骨の病気でずっと車椅子を利用しています。高校の同級生にも車椅子に乗る二人の仲間がいるのですが、私たちには、卒業後、就職先がありませんでした。**本誌** 働きたくても、働き口がなかったのですね？

五十嵐 はい。企業の面接を受けても、うちには階段があるし、車椅子用のトイレもないからと断られてしまいました。それで毎日、プラプラとしていたのですが、そんな私たちに、当時、建築・デザイン設計会社の社長だった只石会長が声をかけてくれたのです。

只石会長は、旭川市のみならず全国各地で数々の実績を持つバリアフリー専門家です。それまで培っ

てきた建設ノウハウも生かしながら旭川市を車椅子の方にも快適に暮らせる街にしていきたいと、(NPO)カムイ大雪バリアフリー研究所を立ち上げていました。

只石 2006年のトリノパラリンピックのときだから12年前のこと。それ以前から彼らは、研究所が推進していた障がい者のスポーツ振興のイベントなどに顔を出してくれていました。いつも来てくれてるが、仕事はどうしているのだろうかという疑問に思い声をかけてみたら、そんな状況だと言う。だったら、手伝ってみないかと話をしたのです。

五十嵐 現在、チーム紅蓮の施設となっているこの建物は、当時は介護用品のレンタルショップでした。「ここを使っただけでできるか、10年チャンスをあげるから、自分たちで考えてみなさい」と会長が言ってくれました。

只石 こは、バリアフリー設備が整っているからね。その頃、経産省が募集する異業種交流で観光を推進する話がありました。私は、バリアフリー観光を提案しましたが、当時、世の中は「バリアフリーって、ユニバーサルデザインってなに？」という感じだった。それなら車椅子に乗っている彼らが一緒になって進めれば、自然と周りの理解が深まると考えたのです。**本誌** チーム紅蓮が誕生した瞬間ですね。

カムイ大雪バリアフリー研究所

車椅子紅蓮隊

就労継続支援事業所(就労継続A型・B型)チーム紅蓮

アダプテッドイベント事業*	ものづくり事業	ニュースポーツ事業
調査研究事業	デザイン・プリント/ クラフト/ ニュースポーツ用品制作	水・美土里事業
ICT事業	バリアフリー観光推進事業	修復・復元事業

*アダプテッドイベント事業/チーム紅蓮では、障がい者や高齢者、子どもが、平等に参加できるように、ルールや用具を適合させたスポーツや、イベントなどの事業を行っています

チーム紅蓮とは…

チーム紅蓮は、(NPO)カムイ大雪バリアフリー研究所の事業所で、車椅子を利用する方や知的障がいのある方などが、働いています。高齢者や障がい者の旅を支援するアダプテッドイベント事業、障がいのある方のニュースポーツの企画や用具の開発。そこから発生し広がっていく調査研究やICT事業。さらに「ものづくり事業」として、Tシャツや看板・横断幕などの製作を手がけています。地域と共生できるいろいろな仕事を創出しています。



お客様の依頼を受け、オーダーメイドの図柄でオリジナルのTシャツやピンバッジを制作。



チーム紅蓮の「ものづくり」の現場を見学する佐藤主管支店長、吉田支部執行委員長。

も広がりました。そこでわかったのは、働く場
がなく辛い思いをしている仲間が想像以上に
多いこと。障がいがあっても当たり前のよう
に生活をしたがい、給料もたくさんほしい。だ
たら自分たちでもっと仕事を創り出してい
うと、6年前に先ほどお話しした高校の同級
生たちと障がい者福祉サービズ 自立就労支
援事業部「チーム紅蓮」を立ち上げたのです。

本誌 佐藤主管支店長と吉田支部執行委員長
は、旭川にお住まいだと思いますが、車椅子
紅蓮やチーム紅蓮のことはご存じでしたか？

佐藤 正直、知りませんでした。

吉田 知人の子どものパラリンピック選手で、
只石会長が行われているスポーツ関連の活動
は耳にしましたが、どういふことをやって
いるのかまでは知りませんでした。

**お客様に喜んでいただけること
それが私たちの仕事のやりがい**

本誌 チーム紅蓮の仕事には、どのようなも
のがあるのですか？

五十嵐 先ほどお話ししたバリアフリー 観光
の調査やそのデータ入力、ホームページ制作な
どのICT業務、他にも障がい者スポーツ関連
など、車椅子を利用していただくことで
仕事があります。でもそれだけでは、利用者さ
んみんなの仕事を満たすことはできませんし、
売上も伸びません。そこでNPOの事業に関
連して発生するイベント用のグッズなどの「も
のづくり事業」も開始したので。

本誌 チーム紅蓮のTシャツやピンバッジなど、
ものづくりの現場も見学させていただきました。
佐藤主管支店長、吉田支部執行委員長の
感想をお聞かせください。

佐藤 私は、Tシャツをつくる工程をはじめ
見学しました。いまの時代は簡単にプリンター

とかでやっているのかと思いましたが、丁
寧につくられていて、その工程もとても多い。
糊を付け、プレスして乾燥させる。この作業を
何度も繰り返してから色をのせることができ、
さらに洗濯・乾燥を行ってやっと完成します。
ここまで時間をかけて一枚のTシャツをつくり
上げていくのかと驚きました。

.....

チーム紅蓮では、はじめてTシャツをつくったとき、
プリントしても洗濯するとすべて消えてしまう、そ
んな苦い失敗も経験。その後、研究を重ね、いまの
工程を完成させました。しかし、このやり方では、1
日30〜40枚しか完成できませんし、対応できるTシ
ャツの素材も限られています。

.....

五十嵐 インターネットなどで買える大企業
が製造する安いものは、うちとは違うやり方
です。パルトコンベアみたいな機械にデータを
送ったら、あとは横に流れてプリント、糊付け、
プレスと大量生産していきます。ここには、そ
んなスペースもないし、お金もないので一枚ず
つ丁寧につくらせてもらっています。

吉田 五十嵐さんは見学した際「小ロットに
もしっかりと対応していく」と説明をされていま
した。「これだけの枚数しかつくらないけれど、
それでもお願いできますか」というお客様は、
多くいらっしゃると思います。

五十嵐 小ロット対応は、一人でも多くのお
客様の需要にきちんと応えて、喜んでもらい
たいからです。これこそが、私たちの仕事のや
りがいです。

**新しい機械を助成で購入し
もつとお客様の要望に応えたい**

本誌 助成を申請されたいききつをお教えく
ださい。



必要とされる方がいつでも快適に利用できる
ように、車椅子のメンテナンスも万全にしてい
ます。



フロアスレッジホッケー／パラアイスホッケーという競技を室内で楽しめるように開発。台
車にローラーをつけ前後左右に進み、スティックは台車を漕いだり、ボールを打つために
使用(写真左)。フロアスレッジの制作中(写真右)。



自分たちが 得意とする事業を...

私たちの得意なことで、地域の方と一緒に旭
川を盛り上げていきたい。チーム紅蓮は、車
椅子で楽しめる新しいスポーツも産学連携で
企画し、その用品も開発しています。また、冬
の北海道は、雪のために車椅子での外出は困
難とされていますが、冬道にも強い最新の車
椅子を旭川駅でレンタル。道外から訪れる方
にも便利な旅のサポート役として、いろい
ろな角度からアイデアを考え形にしています。



助成で新しい機械を導入することでいろいろな素材での制作も可能に。

五十嵐 Tシャツのプリントをはじめから「こういうものがつくれますよ」と、自分たちの商品を持ち、街に出かけPRもしています。それが口コミで広がり、いろいろな企業や団体から「こんなことはできる？ あんなこともできる？」と声をかけていただけるようになりました。しかし、実際にはすべての注文に応えることはできていません。いまの設備では、綿のTシャツにしかフルカラーのプリントをできないため、たとえばジャンパーにフルカラーでプリントしてほしいと注文があっても、お断りするしかないのです。でも、そういった要望にもお応えして、少しでも収入を増やし、給料をアップしていきたい。仕事を拡大できれば「私たちも働きたい」と願う障がいのある方たちも雇用できるようになります。そこで、新しい機械を購入・整備するための資金の申請をしました。

吉田 新しい機械を入れることで、小ロット多品種に比べられるようになるわけですね。
五十嵐 はい。いまは綿素材にしか対応できていませんが、今後はさまざまな素材にカラープリントができるようになります。いままでは、注文をいただいても「それはつくれません」とご要望と違うものを薦めるしかありませんでした。でも、新しい機械が入れば、逆に「こんなこともできますよ」と、自信をもっていろいろなご提案もしていけます。
佐藤 売上の目標はありますか？
五十嵐 別の新しい機械も導入することで、屋外対応の横断幕やプレートも制作できるようになります。現在、Tシャツのプリントだけで400万円強の売上ですが、いままでお断りしていた仕事を受注でき、さらに新しい仕事も獲得できるようにすれば、売上は約3倍強にまで伸ばせると考えています。

只石 いままで営業は、この地域のエリア外へはあまり出ていません。でも今後、体制を整えばカムイ大雪バリアフリー研究所が築いてきた全国各地とのネットワークを活かし、広く道外にも活動していけるかもしれません。徐々に体制をつくり、いろいろなオーダーを受けることができるように、彼らを応援していきたいと考えています。
吉田 これからが楽しみですね。労働組合としては、会社のイベントなどで必要となるTシャツも出てくるでしょうから、そのときはぜひお願いしたいと思います。せっかくなのでいろいろなやつっていただけたら素晴らしいですね。
佐藤 私は旭川に来てからまだ日が浅いのですが、商売をさせていただいている以上、地域の雇用、経済の成長に貢献することが不可欠だと思っています。企業が大きくなるほど社会的責任も大きくなります。
 道北主管支店でも14名の障がいのある方に働いていただいています。障がいのある方にこそ、お力添えをさせていただいて、障がいのある方にもっと仕事を広げていくことができると実感しました。
五十嵐 いま北海道の労働人口の減少、特に道北以北は過疎化が懸念されています。日本の縮図といわれる北海道の中で、この旭川を拠点として一緒に障がいのある方の雇用を促進できたら素晴らしいと思います。チーム紅蓮の商売が繁盛できるようなお手伝いもできればと考えています。
吉田 お金だけではないとわかってはいますが、今回現場を拝見し、お話を聞くことで、資金の必要性を改めて感じました。私たちは、毎年恒例で「夏のカンパ」を30年くらい続けています。全国ヤマトグループの社員約18万人に声をかけ、昨年は約7700万円を集め、ヤマト福祉財団に5700万円を贈りました。また、ヤマトグループでは、フルタイムの社員、正社員に賛助会員になってもらい、年間一人1000円をヤマト福祉財団に届けています。まだ全組合員が賛助会員になっていないので、もっと人数を増やし、少しでも地域で働いている障がいのある方を援助したいと考えています。
五十嵐 助成いただいた資金を活かし、利用者さんの給料と仕事の拡大に努めたいと思います。そして、スポーツや町づくりやものづくりを通して、地域の方たちと一緒に仕事をしたいと思っています。

佐藤・吉田 期待しています。

就労継続支援事業所 チーム紅蓮

就労継続A型・B型

刺繍ミシン・UVプリンター・自動プレス機等の購入

- 平成28年度平均給料 123,943円(5人)
- 平成31年度目標給料 134,524円(7人)

ものづくり事業の対応力拡大へ

チーム紅蓮は、Tシャツプリント性能の強化に加え、野外にも使用できる横断幕やプレートなどもデザイン・制作できる機器などの購入・整備を目的に助成を申請しました。ジャンプアップ助成金500万円を使い、一人でも多く障がいのある方が働くことができる新しい仕事を創出し、売上を拡大。障がいのある方も普通の生活を送れるように、より高い給料の支給を目指しています。



ジャンプアップ助成金 贈呈式の様子は、地元の北海道新聞(5月17日)に掲載されました。

北海道支社



平成30年度 給料増額支援助成金 障がい者福祉助成金

全国で助成金の贈呈式を行いました。

東北支社



ヤマト福祉財団から福祉助成金を受けた新生園とかしの郷の関係者
~~~~~  
(佐々木百合子所長)に福祉助成金約700万円を贈った。障害者の工賃アップにつながる。  
ヤマト運輸右手主管支店(北上市)が花巻市鉛の新鉛温泉愛隣館で開いた会議中に贈呈式を行い、ヤマト運輸の黒岩俊也執行役員東



矢巾、雫石の施設に助成金700万円  
ヤマト福祉財団  
ヤマト福祉財団(本部署、瀬戸薫理事)は8日、矢巾室岡の障害者支援施設新生園(小野寺仁子施設長)と雫石町刈田の町福祉作業所かし和の郷



社手口報 5月6日

北支社長が新生園利用者の昆真弓さん(54)と、かし和の郷の田口蓮さん(36)に贈呈書を手渡した。  
新生園は就労事業の印刷部門で活用するオンデマンド印刷機や製本用機械などの購入資金の一部に500万円を活用。かし和の郷は菜種の保管管理に用いる貯蔵冷蔵コンテナの資金の一部に200万円を充てる。  
小野寺施設長は「新しい機械を整備し品質や作業スピードを向上させ工賃アップにつなげたい」、佐々木所長は「これまでは施設から車で20分かかる倉庫で菜種を保管していた。コンテナを活用し菜種油を雫石の特産品として売り込みたい」と感謝した。  
同財団はヤマトホールディングスグループ会社の社員、労組組合員などが母体で、1993年設立。

関東支社



北信越支社





# 生き残るには、ニンニクしかなかった。

八戸駅から内陸に向かって車で40分ほど、十和田市役所にもほど近いエリアで、「カシスのしずく」はニンニクの生産に注力。給料は2万円の大台に達し、今年度は約2400万円の売上を目標にしています。しかも、ニンニクに取り組み始めたのは、わずか6年前。その元気の秘密を探りに訪れました。

## Data

のうがっこう  
NPO法人 農楽郷ここ・カラダ  
カシスのしずく  
青森県十和田市



3



2



①とう(花茎)の部分。ここを摘まないと養分が取られてしまう  
②運転席前の黒い穴に種苗をどンドンセットするだけで作業が  
すむ乗用型のニンニク植付機 ③収穫前はとう摘み作業がつ  
づく ④仕上げ作業を三上支部執行委員長も体験 ⑤ニン  
ニクの加工品も販売 ⑥「ニンニク市況は今、右肩上がりです。で  
も中国産もどんどん改良されているし、国内競争も激しい。だ  
から、市場単価が4割落ちても耐えられる体力を今つけておか  
ないと」と、先を見据える日野口理事長 ⑦ニンニク乾燥機。大  
きな口から出る温風で、収穫後のニンニクを約1ヵ月かけて乾  
燥させると出荷が可能になる ⑧助成で整備したトレーラーと  
一緒にカシスのしずくのみなさん ⑨ニンニク仕上げ機で一つ  
一つ、ニンニクの根を削り落とす ⑩そのままでは出荷できない  
B級品は水耕栽培で発芽させ、若芽ニンニク(奥十姫)として料  
理店などに卸す。天ぷらなどに使われる



4

## 第2の人生に選んだ観光農園

東北北部にも梅雨の訪れが迫る季節、畑では貴重な晴れ間に精を出している人たちの姿がありました。

「中心から出てくる、とう(花茎)を摘むんです。とうには栄養を持っていられるので、今から2週間後の収穫まではこれをやっていきます」と語るのは、理事長の日野口敏章さん。約2・7haに渡って元気に育ったニンニクは、昨秋に植え付けられたもの。6月下旬には収穫を迎えます。

青森県はニンニクの生産量日本一。約70%のシェアを誇ります。とりわけ十和田は青森産の半分を生産するほど盛んな地域です。

「葉物もやったけど、なかなか難しくってね。それで地場のもの、価値の高いものということでニンニクを一畝、二畝から始めてね」

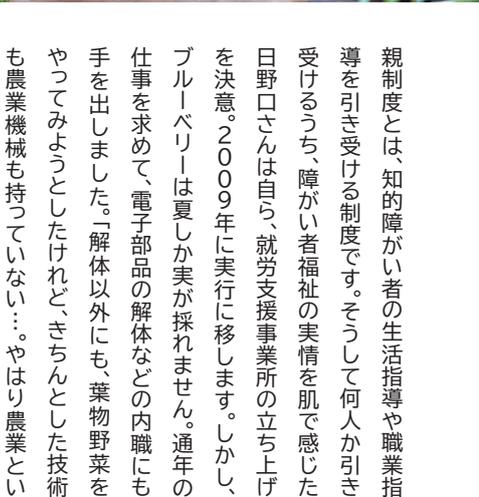
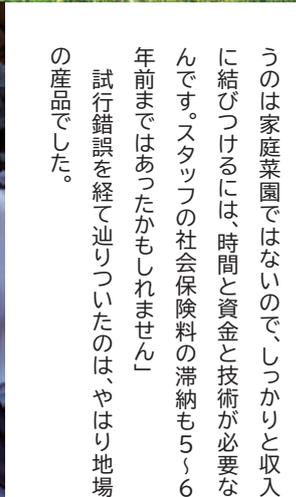
ニンニクの生産を始めたのは、2012年のこと。もともとはその名の通り、カシスやブルーベリーを扱っていました。

55歳まで建設関連業界にいた日野口さん。思うところあって定年を前に退職し、数年前に購入していた草地にブルーベリー園を開きました。2001年のことです。

「ブルーベリーは巨木にもならないし、取っつきやすい樹なんです。それを観光農園にして入園料を取って、お客さんに勝手に採ってもらえばいいと…。この辺の言葉で言えば、からやぎ(怠け者)が発想しそうなことだ」(笑)

黙っていられず飛び込んだ方がいいが…

農園を始めると地域の保健師からまったく考えてもいなかった依頼が舞い込みました。それは「職親を受けてくれませんか」というもの。職



親制度とは、知的障がい者の生活指導や職業指導を引き受ける制度です。そうして何人か引き受けるうち、障がい者福祉の実情を肌で感じた日野口さんは自ら、就労支援事業所の立ち上げを決意。2009年に実行に移します。しかし、ブルーベリーは夏しか実が採れません。通年の仕事を求めて、電子部品の解体などの内職にも手を出しました。「解体以外にも、葉物野菜をやってみようとしたけれど、きちんとした技術も農業機械も持っていない…。やはり農業というのは家庭菜園ではないので、しっかりと収入に結びつけるには、時間と資金と技術が必要なんです。スタッフの社会保険料の滞納も5〜6年前まではあったかもしれませんが」

「試行錯誤を経て辿りついたのは、やはり地場の産品でした。」

## 労働組合支部執行委員長 助成先訪問 Series 29

ヤマト運輸労働組合  
青森支部執行委員長  
三上 雅仁 さん



### 働いている中に、生き甲斐や自分を探す。 それは健常者も障がい者も変わらない。

私も小さい畑をやっていますが、自分たちで食べる分だけで、手をかけずにやっています。それに比べると、農業を事業とすることがいかに大変なことか…。そして、利益を後考えずに分配するのではなく、きちんと設備投資などにも回して、5年後10年後の利用者さんとスタッフさんのしっかりとした基盤を作っていくんだという理事長の姿勢にも感銘を受けました。

福祉とは「当たり前暮らしに幸せがある」ということだと思います。そのために給料6万5000円という目標を立てられたことも素晴らしい。私たちのカンパは、夢を叶える一助になっている。その意義を強く感じました。



事業を安定させて将来の基盤を築きたい

「最初はやっぱりいいものはできなかったんですよ。よその人の収穫量の1/3にしかなりませんでした。でもそれで奮起したというか、やるんなら徹底してやってやろうと」

土壌改良に取り組み、1球が800円もする品質の良い種苗も覚悟を決めて購入。投資に見合った手応えを得たのは3年ほど前からです。そこからは作付を倍々に増やしてきました。その一方で機械化は進んでおらず、利用者の負担は増すばかり。品質の向上も阻む要因となりました。

そこで、借入と当財団の助成金で、昨年5月に二ニク植付機、仕上機、茎切機、乾燥機、運搬用のトレーラーを導入。大幅な設備投資を行いました。

「今のスタッフ、利用者、機械を100%活用

すれば、作付面積としては5haくらいも可能ではないか。願望も含めると、給料も今の倍近くまで単純計算だと成り立つかな」まずは今年に1ha増の約3・7ha、来年度は売上3000万円に挑戦するつもりです。

日野口理事長が想い描くのは、いずれ6万5000円の給料を支払うこと。

「十和田市で自立を考えると、手取りが12〜13万あればなんとか生活できます。2級の人の障害年金が6万5000円弱ですから、1日5時間・20日間働くとして、みんなで時給600円強の仕事ができるようになろうよと。そうすれば生活保護を当てにせずにすみます」

地方の定員20人、B型の1事業所で、年間300万円売ったら結構なものじゃないかな、そう言いつつ日野口さんは笑いました。

この街で、  
一緒に生きていく。



公益財団法人ヤマト福祉財団  
障がい者のクロネコDM便配達事業

# 雪の日も配達は休まない。 ありがとう、がうれしいから。

山形県最南端の米沢市。上杉氏の城下町として知られるこのまちで、特定非営利活動法人 聲明会 指定障がい者福祉サービス事業所「フラワーコート米沢」は、12年以上もクロネコDM便を配達しています。7名のメイトさんによる配達数は、月平均約15,000冊。東北で第1位を誇ります。

山形県米沢市

米沢市は米沢盆地の中心に位置しており、夏は高温多湿、冬は雪に覆われる気候の厳しい地域です。このまちで、「フラワーコート米沢」は平

成18年の3月にクロネコメール便(後にDM便)配達事業を始めました。当初は1名だったメイトさんも、13年目となる現在は全員で7名。配達

エリアが広いため、車と自転車、徒歩に分けて配達しています。

## 大きな声で毎朝 確認事項を斉唱

「フラワーコート米沢」の朝は早く、7時半にはDM便の仕分けが始まります。エリアごとにきばきとDM便を仕分け、地図にマークをしながら配達先を確認していきます。

仕分けが終わると、さあ朝礼。ここでは、毎日必ず行う儀式があります。それが、配達時の確認事項の斉唱。「イチッおお客様へのあいさつ」、ニッおお客様の名前と番地の確認」と続き、「う、タオルとビニールの携帯」「10、配達中は携帯をマナーモードにしないで、音が聞こえるようにしておく」など、細やかな確認を全員で高らかに読み上げます。

最後は、緊急連絡先として「フラワーコート米沢」の住所と電話番号を斉唱。「今日も一日よろしくお願します!」と元気に締めくくりました。

## 確認をくり返す「プロの仕事にならないうへ

「仕事をするなら、だれでもプロにならないといけません。ミスは許されななんです」と「フラワーコート



▲上杉神社を背に、ペアを組んで配達中。長谷部正子さん(左)は、スタート時からのメンバーで、リーダー的な存在。「最初は不安でしたが、今は配達するのが楽しい」。舟山陽さん(右)は、三輪自転車に重いDM便をのせてサポート。「この仕事は自分にあっているので続けたいです」。  
▼左下/嵐田洋一さん「DM便を始めてから、よく眠れるようになりました。65歳までがんばりたい」。右下/小杉恭道さん「一生懸命やっているね、と褒められてうれしいです」。



- 山形主管支店 米沢広幡センター  
面積135km<sup>2</sup>/人口20,497人/世帯数7,886世帯
- 特定非営利活動法人 聲明会  
指定障がい者福祉サービス事業所「フラワーコート米沢」  
就労継続支援B型事業所  
2006年からクロネコメール便(DM便)配達を開始。1日配達冊数、約600冊。他の活動は、縫製会社からの内職、寺院用具の組み立てなど。

「障がい者のクロネコDM便配達事業」  
参加施設数 318施設 従事者数 1,630人(2018年5月現在)  
お問い合わせは……(公財)ヤマト福祉財団 DM便担当  
TEL 03-3248-0691 FAX 03-3542-5165  
<http://www.yamato-fukushi.jp/>

※ 2015年4月1日より、クロネコメール便配達にはクロネコDM便配達へと変わりました。



▲車を運転しながら一人で配達をする、ベテランの鈴木幸平さん。担当地域の配達は、ほぼすべて把握しているといいます。「地元のみなさんに、いつも助けてもらっています」。



上左／慣れた手つきでDM便を入れていく鈴木幸平さん。  
上右／車内で相談しながら配達をする柏倉綱裕さん(左)と吉田智子さん(右)。  
左／DM便を手渡しする吉田さん(右)。いつも笑顔で挨拶をします。



米沢の赤尾雷水理事長(施設長)は話します。「そのためには、繰り返しの訓練がとても大事。確認を何度もすれば、みんなしつかりできるようになります」。

その言葉通り、「フラワーコート米沢」では、確認を徹底しています。雨や雪の日はDM便がくつつきやすいので、1冊であることを確認する

◀真宗大谷派 養善寺の住職でもある“フラワーコート米沢”の赤尾雷水理事長(施設長)「DM便配達で感じるのは、メイトさんの変化です。生活が規則正しくなって、健康的になります。会話が苦手だった人も、あいさつができるようになりました。続けてよかったと思います」。



◀田園地帯を、車に乗ってペアで配達。柏倉綱裕さん(左)は運転も担当。「ありがたいと言われると、始めてよかったと思います」。吉田智子さん(右)はメイト歴約10年。「雪の日は転ぶこともあるけれど、配達は楽しい」。



### 長靴を履きつぐすほど過酷な冬の配達

「特別豪雪地帯」に指定されている

こと。配達に出かけたら、11時、13時、14時、15時に携帯電話で状況を報告することなど、その内容は細部にわたります。また職員の情野由典さんは「他の地域を忘れないために、一人が同じ場所ばかりを配達しないように考えています」と話します。

こつした日々の努力を続けることで、今や東北で配達数第1位、全国でも第2位の成績を誇るまでになりました。人口密度が低く、配達効率の悪い地域にもかかわらず、達成した成績。平成27年には、工賃向上の成果で山形県知事から表彰されています。

### このまちのDM便にとって欠かせない存在

このまちの、冬の配達は過酷です。道も家も深い雪で覆われます。顔を上げられないほどの吹雪の中、徒歩での配達は通常の倍の時間と体力を要するといえます。メイトさんを始めて13年目のベテラン、長谷部正子さんは冬の3ヶ月で長靴を3足も履きつぐすそうです。玄関の位置を高くしている家が多く、凍った階段で転んでしまうメイトさんもあるとか。

この時期はさぞかし辛いだろうかと、冬の配達はイヤではありませんか、とメイトさん達にたずねました。すると「そんなことはありません」と意外にも明るい返事。地元の方のためにプロの仕事をしているという自信と充実感が、彼らの表情に表れているようでした。

ヤマト運輸山形主管支店 サービスセンター 永山直樹センター長は「12年以上もの長い間、つねに安定した品質で仕事をしてもらっています。大変、感謝しています」と、フラワーコート米沢の仕事が高く評価します。

「私たちのエリアは米沢市の約4分の1を占めますが、そのほとんどDM便をこちらで担当してもらっています。安心しておまかせできますし、本当に助かっています」と話すのは、ヤマト運輸山形主管支店 米沢西支店 水野浩一 支店長。この地域に、欠かせない存在だと語ります。



◀前列左より/“フラワーコート米沢” 柏倉綱裕さん、鈴木幸平さん、吉田智子さん、長谷部正子さん、職員 小林・カルミナ・エヴァンゲリスタさん、赤尾慶子理事(職員)  
後列左より/職員 情野由典さん、赤尾雷水理事長(施設長)、小杉恭道さん、舟山陽さん、ヤマト運輸山形主管支店 米沢西支店 水野浩一 支店長、ヤマト運輸山形主管支店 サービスセンター 永山直樹センター長、ヤマト福祉財団東北支部 小原守事務長

「フラワーコート米沢」の確認事項には、こんな取り組みもあります。一人暮らしのお年寄りの家では、必ず「おはようございます、メール便です」と声をかけて置いてくること。地域の安全を考えて自主的に始めた活動だそうです。

お年寄りの見守り、という地域の一人としての役割を、DM便配達を通してメイトさん達が、しっかりと担っていたのです。

医療法人社団弘善会／清瀬富士見病院を中心に介護老人保健施設や精神科・心療内科クリニックなどを運営。介護老人保健施設「ラビアンローゼ」と「きよせ認知症ケアセンター」で4名の障がいのある方を雇用しています(2018年5月現在)。

口下手な福村さんも職場に打ち解けました(後列右から2人目)



5年目になり仕事も手慣れて信頼も厚い渡部さん(後列左)

## 自ら考え担当の仕事を 責任を持ちやり遂げる

「責任を持って働く2人は、入社時に比べ頼もしく成長しました」と、医療法人社団弘善会の木村良子事務長。「もっと仕事を任せたい」と周りも期待しています。

■ヤマト自立センター スワン工舎 就労に必要なスキルの習得はもちろん就労先の開拓からジョブコーチによる就労後のサポートまで一貫したプログラムで、障がい者の自立支援に取り組んでいます。

「入社して約5年が経ち、渡部君は随分と成長しました。自分の仕事に責任を持って日々取り組み、顔つきも随分と大人っぽくなりましたね。変化したのは、渡部さんだけではありません。「障がいのある方とどう接し、仕事を任せていくか。渡部君との出会いで、私たちの考え方も変わってきたと思います」。

「給料は最賃を確保し、100%ではありませんが賞与も出ます。それでも高い給料とは言えませんので、働く時間をもう少し増やしてはと話しています。高齢者介護業界は、この施設も人手不足。いま2人には介護職員の仕事を部分的に担当してもらっていますが、介護の資格を取得できれば、障がいのある方の活躍の場はもっと広がると思います」。

## 人手不足の高齢者介護業界が 障がいのある方の活躍に注目

「私たちがはじめて雇用した障がいのある方が、渡部君でした」と医療法人社団弘善会の木村良子事務長。「ここで仕事は、入所、通所される高齢者のケアを行う専門職が中心で、どんな仕事をどこまで頼んだら良いのか、最初は悩みました。ところが渡部君のまじめな仕事ぶりを見るうちに、この仕事もあの仕事もと、任せる領域が広がっていったのです」。

「職員と同じハッピを着て働いたことが楽しかったみたいで、いまは会話も自然に広がっています。仕事は正確でも丁寧。ある日、背の高い福村さんにか届かない窓ガラスの清掃をお願いしたことがあったのですが、それから、窓ガラスを拭く曜日を自ら決め、計画的に作業に取り入れてくれています」。



入居者のベッド環境を整える渡部さん。周りの指示を受けなくても自ら判断し次の仕事を進めています。

渡部 凌 さん きよせ認知症ケアセンター(平成25年12月1日入社)  
勤務時間は9:00~16:00。給料で自分の好きな本やCDを買うのが楽しみと話します。



実習時から丁寧な仕事ぶりを評価された福村さん。車椅子1台に15~20分かけてきれいに洗浄します。

福村 恵史 さん ラビアンローゼ(平成28年7月1日入社)  
入社して1日も遅刻も休んだこともない福村さん。休日は趣味のゲームに熱中します。

## 利用者さんの給料増額へ向かって

# 夢へのかけ橋 実践塾活動報告

5月23日「新堂塾(第3期)見学・勉強会」

自分がなにをつくっているのかが見れば、  
目標も明確に立てられ、意欲も高まる。

5月23日、新堂塾は二つの塾生施設で見学勉強会を行いました。最初に訪れた大阪府堺市にある(NPO)ウイングのウイングデイは、DMの封入封かんの仕事をスタートさせただけ。「このままだと、利用者さんはどんな仕事か、いくつ動いているのかわかりません」と菅野教授。「大切なのは、今日はここまでやろう、何個までつくりたい、目標を明確にしてあげること」と新堂塾長はアドバイスしました。

次に訪れた兵庫県尼崎市の(社福)福成会 チャレンジ・コヤリバは、製造業などに使用される工具や部品の袋詰めを行っています。菅野教授は「セル作業の問題点は、各人のペース、利用者さん任せで仕事を進めていること。全体の生産性が落ちてきたとき、原因がどこにあるのかわからず、具体的な改善策を立てにくいのです」と指摘しました。

修了式まで残り3ヵ月、他の塾生たちもそれぞれの工夫が次第に結果に結び付いています。新堂塾長は「今日見学した施設のいい点、悪い点をもとに、自分の施設の改善に役立ててください」と呼びかけました。



DM作業をスタート。利用者さんにわかりやすい目標を(ウイングデイ)。



(チャレンジ・コヤリバ)「資材を運ぶ距離を短くするなど、改善のポイントはまだまだあります」と新堂塾長。

4月12・13日「楠元塾(第2期)見学・勉強会」

生産性を高める時間の使い方や動線の工夫。  
さらに、衛生管理の徹底を細かく指導。

塾生施設を訪れ、現場の改善点を細かく指導していく楠元塾長。4月12日は栃木県栃木市の(NPO)海がめの海がめ物語へ。包丁やまな板、油の保管・取り替えのタイミングなど衛生管理を指導。さらに「利用者さんの支援は他の職員に任せ、調理場の責任者である塾生は、仕込み、調理の段取りから配達に間に合うように全体の進行管理を担当し、原価率も正確に出してください」と職員との役割分担についても話しました。

その後、群馬県北群馬郡へ移動し、翌日は(NPO)山脈のキッチンハウスみやまを見学。弁当を試食した楠元塾長は生産性を上げるために一番忙しい朝に朝礼を行うのではなく、作業が終わった昼に行うことを提案しました。調理場では、利用者さんが安全に動けるように調理器具の置き方などもチェック。衛生管理については「お弁当は2020年までにHACCPを取得しないと、病院などの仕事を受注できなくなります。その地域で“一番衛生管理がしっかりしている弁当屋”と評価されるレベルまで高めていきましょう」と参加者に伝えました。



「具体的なタイムスケジュールをつくれれば利用者さんも動きやすい」との意見も(海がめ物語)。



弁当の美味しさに太鼓判を押した楠元塾長は、効率的に生産できる時間の使い方指導(キッチンハウスみやま)。

## YWF TOPICS

### ネパールの子どもたちに光を届ける活動を、ヤマト福祉財団はヒカリカナタ基金と共同で行います

第17回ヤマト福祉財団小倉昌男賞受賞者である竹内昌彦氏が小児白内障治療を目的に「ヒカリカナタ基金」を設立。賞の副賞賞金もその創設基金の一部となりました。財団は子どもの頃に失明し、視覚障がい者への支援活動を続ける竹内氏から相談を受け、ヤマトグループで就労するネパール人が急増(約1000人)していることや、貧困により手術ができずに失明する白内障患者が多いことから、ネパールへの支援を提案。今年の12月には視力検査や角膜・眼底検査を行うアイキャンプをダーティン郡の二つの小学校で行うことが決定しました。

この活動を日本語とネパール語のポスターで職場にお知らせしています。7月1日からは文具支援のご協力ををお願いするポスターも掲示。それに先立ち、6月12日には羽田クロノゲートで勤務するネパール人社員と情報共有のミーティングを行いました。



羽田クロノゲートで勤務するネパール人社員のみなさん



福岡・船橋・羽田クロノゲート・神奈川・名古屋の各ベースに寄付専用箱を置いています。



葛飾北斎 「風流なくてなぐせ 遠眼鏡」 享和年間(1801~04)  
大判錦絵 【後期展示】 ©Lee E. Dirks Collection



無款(鳥居清信) 「市川役者の鬼打豆」  
宝永末~正徳期(1709~15)頃  
大判丹絵 【後期展示】 ©Lee E. Dirks Collection



葛飾北斎 「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」 天保2年(1831)頃  
横大判錦絵 【前期展示】 ©Lee E. Dirks Collection

■ 浮世絵版画コレクター リー・ダークス氏

リー・ダークス氏(1935~)はアメリカのインディアナ州に生まれ育ちました。1958年から1961年まで日本に空軍士官として滞在していた時にジェームス・ミッチェナーの「日本の版画」(“Japanese Prints”)を読み、浮世絵版画に特に興味を持つようになりました。帰国後は大手新聞社で記者・編集者そして経営幹部として活躍。その後は新聞社の合併・買収に携わり新聞業界で50年のキャリアを謳歌しました。2000年頃から本格的な浮世絵収集を始め、現在では初期浮世絵から明治・大正時代に至るまでの250年間に及ぶ素晴らしい浮世絵コレクションを構築しています。

■ 浮世絵の歴史を網羅した稀品、著名作品

本展では、浮世絵の祖・菱川師宣、美人画の喜多川歌麿、役者絵の東洲斎写楽、そして葛飾北斎や歌川広重など代表的な浮世絵師の優品をあつめたダークス氏のコレクションから、160余点を紹介します。会場では「第一章 江戸浮世絵の誕生 初期浮世絵版画」から「第六章 幕末歌川派の隆盛」まで六つの章構成となっており、中でも「第五章 北斎の錦絵世界」の「風流なくてなぐせ 遠眼鏡」は世界で3点しか確認されていない北斎の錦絵の美人画で、コレクションの中でも特に貴重な作品です。浮世絵版画200年の歴史を概観できる展覧会です。

本展はヤマトグローバルロジスティクスジャパン株式会社から作品の輸送・展示をしています。

DATA

開催期間 ▶ 前期: 2018年7月3日(火)~8月5日(日)  
後期: 2018年8月8日(水)~9月30日(日)  
休館日 ▶ 8月6日(月)、7日(火)  
※前期、後期で全点展示替えをします。  
開催場所 ▶ 相国寺承天閣美術館  
アクセス ▶ ■JR・近鉄「京都」駅、阪急電車「烏丸」駅から地下鉄烏丸線「今出川」駅下車3番出口より徒歩8分  
■京阪電車「出町柳」駅3番出口より徒歩20分  
■市バス「同志社前」下車徒歩6分  
※駐車場はありませんので公共交通機関をご利用ください。  
開館時間 ▶ 10:00~17:00  
※最終入館は16:30まで

観覧料 ▶

|    |        |          |       |
|----|--------|----------|-------|
|    | 一般     | 65歳以上大学生 | 小中高校生 |
| 当日 | 1,000円 | 800円     | 500円  |

※団体: 800円(20名以上・一般のみ)

※障害者手帳をお持ちの方と介護者1名は無料

主催 ▶ 相国寺承天閣美術館、日本経済新聞社、京都新聞

後援 ▶ 米国大使館

協力 ▶ 日本航空、MBS

問い合わせ先 ▶ TEL: 075-241-0423

http://www.nikkei-events.jp/art/ukiyo/e/

巡回情報 ▶ 横浜会場(横浜高島屋)

10月10日(水)~10月22日(月)

東京会場(日本橋高島屋)

2019年1月9日(水)~1月21日(月)

大阪会場(大阪高島屋)

2019年2月23日(土)~3月11日(月)

平成31年度福祉助成金募集

ヤマト福祉財団は、障がいのある方々の収入が増えれば豊かで幸せな人生の夢が実現すると信じ、福祉施設が「経済的自立力」を兼ね備えることが、障がい者の望む「夢の福祉」であると考えています。

そこでヤマト福祉財団は、福祉施設の方々へのお手伝いとして、「経済的自立力」向上のため新規事業の立上げや生産性向上に必要な設備や機器の購入を支援する助成金事業と、障がいのある方々の福祉増進を目的とした事業活動に対して助成金を支給しています。

応募期間

平成30(2018)年10月1日から平成30年11月30日まで(当日消印有効)

I. 障がい者給料増額支援助成金

1. ジャンプアップ助成金 助成金額 1件あたり定額500万円
2. ステップアップ助成金 助成金額 1件あたり上限200万円

II. 障がい者福祉助成金

助成総額 1000万円(1件あたり最大100万円)

問い合わせ先

公益財団法人ヤマト福祉財団 助成金事務局 TEL: 03-3248-0691

募集内容・応募要件等詳しくはホームページをご覧ください。 <https://www.yamato-fukushi.jp/>

